

関連項目：教育活動プラン②、④

異年齢集団で活動する楽しさを体感し、互いの理解や自信につなぐ

目的

本校の児童は小規模校のため、互いに顔や名前は知っていますが、今以上に深くかかわる必要性を感じず、互いの理解が固定化しやすい傾向にあります。そこで、自己理解や他者理解を深め、児童相互が共感的な人間関係を育成できるよう、異年齢集団による楽しい遊びの活動を実践しました。

内容

異年齢集団のまだけっこチームでの活動は、縦割りグループで一緒に遊びを楽しむことが中心です。6年生を中心に遊びを考え実践することで自主性を育てたり、遊んだ後に互いの感想を紹介し合い、チームの中での絆や信頼関係を深めたりするものです。

● 縦割り集団（まだけっこグループ）活動の内容の選択

年の差や経験によって結果に影響が出ず、どの子も楽しいと感じることができ、家庭においても家族と一緒に楽しめる遊びの内容を職員で話し合い、百人一首、将棋、トランプ、おはじきを使った遊びを取り入れることにしました。

● 6年生がリーダーとなる活動グループの編成

遊びのグループは、学年の枠を超えた縦割りで、赤、青、黄、緑の4つのまだけっこグループを、17人の6年生一人一人がリーダーとなるよう、さらに小チーム(4～6名)に分けました。(卒業時には、そのリーダーである6年生に、メンバーの下級生からお礼と励ましのメッセージを色紙にして渡します。)

● 主体的な活動を育てるための支援

6年生が中心となって遊びを進めることができるよう、司会用の手引きとタイムテーブルを持たせ、下級生の意見を聞きながらゲームや遊びを進めることで、自分のいる集団を自分たちの力で円滑に運営する主体性が育つように支援しました。

また、一人一人の思いや願いを出し合い、自分たちで遊びの内容を話し合って決めることを通し、より望ましい集団活動の方法や実践的な態度を身に付けていくことができるようにもしました。

6年生が中心となる役割を受け持つことで、自分の能力を生かし、自己有用感を持つとともに責任感を育てることができると同時に、下学年児童のフォロワーシップが育つと考えました。

● 児童の気持ちをつなげるためのカードの活用

活動の後カードに感想を書き、グループや学級の中で紹介し合ったりします。一緒に活動し、どのように周りの人が感じたり思ったりしているのかを知ることで、より安心感や満足感、充実感がもてるようにできると考えます。

● 親子活動とつなげて

11月に学校行事として実施する「親子ふれあい活動」で、全校児童が保護者と一緒に、この縦割りグループでの遊びの活動を行うことを通して、家族相互の関係をより深めるとともに、他の家族の方とのより良い人間関係づくりにもつながったのではないかと思います。



場所	日時	9/15	10/20	11/17	12/15
ラウンジ	カルタめぐり	赤	青	黄	緑
ラウンジ	駒取り	緑	赤	青	黄
体育館	おはじき取り	黄	緑	赤	青
体育館	組合わせ	青	黄	緑	赤

【タイムテーブルと進行表】

「まだけっこグループで遊ぶ」 会の進め方

☆ 進行 6年生

※2のり

- 1 メンバー確認 みんなそろいましたね。
- 2 あいさつ 今からグループごとに遊びましょう。
- 3 遊び方の紹介 遊び方を紹介します。(下の文を参考にして話してください)

※3のり

- ・カルタめぐり カルタには順番、お題、順番があります。順番が出た時は、そのカルタが自分の物になります。順番が出た時にはそれを取りもう一度カルタがとれます。また出てきたカードが自分の物になります。順番が出たら、そのカルタは、みんなの真ん中に捨てます。
- ・駒取り 首をささずに駒を取ります。首がしたらおしまい。取れた駒は自分の物になります。駒がなくなったらもう一度できます。
- ・組合わせ 裏にしたカードから2枚カードを引きます。数が同じ時、自分のカードになります。もう一度引けます。数が違う時はカードを裏にして戻します。
- ・おはじき取り 自分のおはじきを一列決めます。おはじきをばいいておはじきに当てます。当たれば自分の物になります。もう一度できます。

※4のり

- 4 振り返り 今日、グループで遊んでどうでしたか。カードに感想を書いてください。
- 5 あいさつ 来月また一緒に遊びましょう。教室に静かに帰ります。

【会を進めるための司会の手引き】

2月6日 未読

ふりかえりカード 名まえ

よかったこと、たのしかったことをかきましよう。
(チームの人とあそんで あそびの思い出をうっごにしたいことなど)

6年生が かんがえたあそびは、おはじき取り
一回目は、4位だったけど二回目は、2位でした
彦根のひょうろでだれかおはじきを取った
ふかぬした、とても楽しかったです
一年間、まだ、あそびで、いっしょにあそんでくれて
ありがとうございました
さいこのあそびは、いつもより、楽しくなりました。

【活動を終わっての児童の感想】

成果

こうした取り組みを通して、次のような成果がみられました。

- 学年を超えた交流活動ができ、人間関係が豊かに結ばれ、自己理解、他者理解が広がってきました。
- 学年間でのトラブルが減少し、休憩時間に、運動場で異学年で遊んだり、図書室で一緒に読書やゲームを楽しんだりするなど、より良い人間関係を作ろうとする姿勢が見られるようになってきました。
- 学年に応じた立場や役割について考え、判断し、行動することで、高学年児童にはリーダーシップが、中・低学年児童にはフォロワーシップが育ち、成就感や自信を持てる児童が増えてきました。